ざつだん
BY INCHO

## SCHEDULE

開催場所 **掛川東病院正面玄関前**

**地域の方もお越しください！**

**11月27日(金) 11時半～14時**



**スコーンONE**

当店のスコーンは生クリームやバターの風味豊かなしっとりサクふわスコーンです。



**コレム**

本格エスプレッソマシンで淹れた挽きたての香り高いコーヒー。

**12月25日(金) 11時半～14時**



**パンヤベーカリー**

ハードパンやデニッシュ、クロワッサンを販売します！



**コレム**

本格エスプレッソマシンで淹れた挽きたての香り高いコーヒー。

**ざつだん** とは？

「仕事に楽しみを」毎月、職員や近隣事業所向けに開催されているイベント。
美味しい飲み物や食べ物を囲み、気軽に話すことができるきっかけ作りを目的としています。



## 希望の丘マルシェ4

地域の皆様に支えられ、4回目となる希望の丘マルシェを開催することができました。今年は2,100名もの方にご来場いただき、たくさんの新しいつながりが生まれました。また、「防災」を今回のテーマの一つとし、防災テントの展示や、移動型のオンライン診療体験ブースを新たに設けました。これからも地域の皆様とともに、つながりを育む活動を続けてまいります。
ご来場いただいた皆様、開催にご協力いただいたすべての方々に、心より感謝申し上げます。

お問い合わせはお気軽にどうぞ！

## 地域を支える仲間募集

掛川東病院では医療介護を通じて
地域の皆様が安心して暮らせる環境を
一緒に作る仲間を募集しています！



まずは見学でもOK
お気軽にお問い合わせください
☎ 0537-23-7111（市野）

## Instagram

当院の取り組みやイベントを随時更新中。
医療現場の日常をお届けしています。







KAKEGAWA_EAST_HOSPITAL

| 回復期リハビリテーション病棟 診療実績（令和8年9月） | | |
|---|---|---|
| 新規入院患者に対する重症度割合 | | 55.1% |
| 重症患者で FIM16点以上改善している割合 | | 72.5% |
| 在宅復帰率 | | 89.8% |
| アウトカム評価（実績指数） | | 52.4 |
| 患者1人あたりの提供単位 | | 7.9 |
| 患者構成 | 脳血管疾患 | 52.0% |
| | 運動器 | 24.5% |
| | 廃用症候群 | 23.5% |



医療法人社団 綾和会
**掛川東病院**
〒436-0030
静岡県掛川市杉谷南1丁目1-1
☎ 0537-23-7111
FAX 0537-23-7116

# そうせい

11
2026

医療法人社団　綾和会　掛川東病院　桔梗の丘　広報誌

No.35



## contents

特集

- **FOCUS** 患者様の安全を守る、当院の「人を責めない」医療安全文化
- 希望の丘マルシェ vol.4 開催報告

FOCUS
人や取り組みにスポットライトを

病院で活躍する「人」や、地域とともに進める「取り組み」に焦点を当ててご紹介します。患者様や職員、地域の方々がつながり、より良い医療と暮らしを築くための挑戦や想いをお届けします。

# 患者様の安全を守る、当院の「人を責めない」医療安全文化

～報告が上がることは「安全の基盤」。個人追及から仕組みの改善へ～



医療安全責任者（医師）
河本 正昭



医療安全管理者・専任看護師長（看護師）
鶴見 啓江

病院という場所は、患者様の命と健康をお預かりする場所であると同時に、常にさまざまなリスクと隣り合わせの場所でもあります。医療事故を防ぐため、掛川東病院ではどのような取り組みを行っているのでしょうか。今回は、当院の医療安全のキーパーソンである河本医師と、今年度から専任となった鶴見師長のお二人に、当院が目指す「医療安全の未来と組織文化」について、話を伺いました。

## 01 「医療安全」の根本は「患者様の安全」

**Q お二人が担っている「医療安全」の役割について教えてください。**



河本

「医療安全」という言葉は病院という組織側から見た表現で、患者様の視点に立つと「患者安全」という表現になります。完全に同じ意味ではありませんが、私たちの根底にあるのは**「患者様に害が及ばないようにする」という強い思いです。**患者様の安全を土台にして、病院という組織として何ができるかを考えるのが私の役割です。当院のような規模の病院では、医療安全管理室は専任の鶴見師長以外専属スタッフはいません。日頃は師長が一人で各部署を回っています。事例ごとに相談や報告を受け、意見や助言を行います。



鶴見

医療安全管理者として、組織横断的に各部署の責任者やスタッフと連携し、日々の安全管理の実務を推進しています。専任の師長という立場になり、病棟業務から離れて医療安全に専念できるようになりました。私が最も大切にしているのは**「現場に足を運ぶこと」**です。医療安全の担当者が病棟に来ると「何か怒られるのではないか」と警戒されがちですが、そうではなく、「困ったときに鶴見さんに相談すればいいんだ」と現場のスタッフに思ってもらえるような、顔の見える温かい関係性づくりを意識しています。

## 02 月100件以上の報告は「安全の財産」

**Q 現在、1か月あたりどのくらいのインシデントやヒヤリハットが報告されているのでしょうか。**



河本

月に 100 件から 120 件、多い月で**150件ほど**の報告が上がってきます。内容としては、ナースコールが重なった際の「転倒・転落」、ご高齢のデリケートな皮膚の「スキンケア関連」、そして「薬剤関連」「食事関連」が主です。当院は急性期病院ではありませんが高齢の方が多く、重大事故のリスクは決して小さいわけではありません。幸いにして現在のところはどこかの段階でチェックされたり、ただ単に運が良かっただけかもしれませんが深刻な事態を生じた経験はありません。

**Q 毎月それだけの報告が上がってくるのですね。これだけ聞くと驚かれる方もいるかもしれませんが、報告が多いのは悪いことなのでしょうか？**



鶴見

いえ、逆です。**報告が上がってくること自体が、安全管理が機能している基盤**だと言えます。実際に、報告を多くあげる組織は重大なアクシデントや医療事故が少ないというデータもあります。特に当院では、患者様に全く影響がなかった、事前に防ぐことができたヒヤリハット報告が全体の約 3 分の 1 を占めています。被害が生じなかった報告は、ある意味で「成功体験」と言えます。「なぜ未然に防げたのか」「気づけたスタッフはどう動いたのか」という行動原理を分析し、言語化することで、病院全体の安全の質を高めるヒントを共有できるのです。すべての報告は当院にとっての「財産」です。

# “エラーの報告を恐れないでください”　河本 正昭　―医療安全責任者（医師）

## 03 「人を責める」のではなく「仕組みを変える」

**Q ミスが起きたとき、当院ではどのように対応しているのでしょうか。**



河本

私は、エラーの報告は当事者を罰する目的のものではないと常に伝えています。**人は誰でも間違えます。**エラーが起きたとき、個人の技術不足を責めるのではなく、そのエラーが発生した「周囲の状況やシステム」を把握し、改善することが重要です。報告をためらわずに出すことが、めぐりめぐって自分や他者を救うことにもつながるのです。



鶴見

本当にその通りです。起きてしまったことを「なんで起きたんだ」と責める従来のアプローチだけでなく、今は「どうやって正常に戻せたのか、何がうまくいったのか」という視点を大切にしています。現場での対策も、「ルールを守れないなら、さらに新しいルールを増やす」という足し算の対策はしません。ルールを増やせば現場の負担が増え、余計にミスを誘発します。



河本

それよりも、例えば「輸液の管と、胃に入れる経管栄養の管は、物理的に絶対に繋がらない形状に変更する」といったように、究極的には**「人間が注意して考えなくても、絶対に間違えようがない環境」**を作っていくことが理想だと考えています。

## 04 医師と看護師、職種の壁を越えた「心理的安全性」

**Q 患者様の安全を守るためには、医師や看護師など多職種が連携し、些細なことでも声を上げることができる関係性が不可欠ですね。**



鶴見

はい。病院の中には、医師、看護師、リハビリ職など、それぞれ専門性や独自の文化を持った「部族」が集まっています。それぞれの「正義」がぶつかると対立が起きます。それを乗り越えるために不可欠なのが**「心理的安全性」**です。「これを言ったら怒られるかもしれない」「告げ口したと思われないか」という恐れがある環境では、誰も声を上げられません。私と河本先生の間でもそうです。私が「現場のことで相談に乗ってください」と気軽に言える関係性が築けているからこそ、医師の立場から現場に働きかけてくれる。私たちは**「自転車の両輪」**のように、役割を分担しながら同じ方向へ進んでいます。



河本

鶴見師長からの連絡で随時報告や相談を受けています。また、毎月 100 件以上のインシデント報告には、鶴見師長だけでなく私もすべて目を通しています。電子カルテ上でシステムを通して、現場の師長やリーダーに向けて「この対応で良かったと思う」「こういう見方もあるよ」とコメントを書き込み、差し戻して共有しています。



鶴見

現場のスタッフからは、河本先生が報告をしっかり読んでコメントを返してくれることが、「自分たちを見てくれている、考えてくれている」という安心感に繋がり、すごく嬉しいと好評なんですよ。

### 地域の皆様、読者へのメッセージ





河本：まずはエラーの報告を恐れないでください。これは「では、いくらエラーしてもいいんだ」という誤った解釈からモラルハザードを招きかねませんが、専門職としてのプロ意識と病院や地域への帰属意識を高めていくことは業務の質のみならず、医療の安全性を高める上で大事なことと考えます。その一つの報告が新たな視点を生み、医療の質を向上させる共有の財産となります。マンパワーや資金の不足は当院規模の他の病院でも同様の事情かと思います。だからこそ組織全体で、**人を責めず仕組みを変える**、前向きな安全文化を育てていきたいと思います。

鶴見：医療安全は職員だけで実現できるものではなく、患者様やご家族の協力も必要です。患者確認、検体や薬の情報共有、服薬情報の申告などは、**患者様やご家族の協力があってこそ安全に繋がります。**引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。